『ドラゴン桜』は本当か

三田紀房（１９５８～・みたのりふさ）の漫画『ドラゴン桜』は、２００３年から２００７年に漫画週刊誌に連載され話題となり、連載途中の２００５年に『ドラゴン桜』のタイトルでテレビドラマ化された。そして、漫画『ドラゴン桜』のその後を描く『ドラゴン桜２』が２０１８年から２０２１年に連載され、タイトルは１６年前と同じく『ドラゴン桜』として再びテレビドラマとなってこの４月から放映された。みなさんの中にも見た人がいるだろう。

『ドラゴン桜』を全く知らない人のために、簡単にあらすじを紹介する。人気がなくてつぶれそうな高校があった。そこで、生徒たちを東大へ合格させて世間の注目を集めることで学校を立て直そうとする。「東大に合格するのはそんなに難しいことではなく、工夫した正しいやり方で勉強すれば受かる」。指導する弁護士・桜木（テレビドラマでは阿部寛）の言葉を信じてがんばった結果、生徒たちは本当に東大に合格する。めでたし、めでたし。だいたいこんな話。

漫画やテレビドラマだから、もちろん「すべてフィクションです」なのだが、それでも気になる。本気で『ドラゴン桜』式に勉強したら本当にこういうことは起こるのだろうか。〇〇大学や△△学部に合格したいと考えている牧高生にとって『ドラゴン桜』はどれぐらい役立つのだろうか。『ドラゴン桜』は本当か。

『ドラゴン桜』より十年くらい前に、「東大に合格するのはそんなに難しいことではなく、工夫した勉強をすれば受かる」という同じメッセージを発信し、受験生を勇気づける精神科医（受験技術研究家とも名乗っていた）がいた。和田秀樹（１９６０～・わだひでき）である。彼自身は兵庫県にある中高一貫の名門進学校・灘高校で学び、東大理三（医学部）に現役合格した。そんな受験エリートの特殊な話は参考にならないと思うだろう。だが、彼には進学校ではないふつうの公立高校に通っていた弟がいて、自分の体験を踏まえた勉強法を伝授してがんばらせたら東大文Ⅰ（法学部）に現役合格した、という実績があった。だから、彼のアドバイスに従って勉強したら夢がかなうかもという期待を多くの受験生に抱かせ、一大ブームを巻き起こした。

和田秀樹は、『受験は要領』（１９８７）、『数学は暗記だ』（１９９１）、『受験英語攻略法』（１９９５）など、大量の受験勉強本を刊行していた。私はすっかり彼にはまり、生徒たちに和田式勉強法を積極的に紹介した。２５年くらい前のことだ。当時の私は「ふつうの公立高校」で働いていた。だが残念ながら「和田式勉強法のおかげで合格しました」という報告を一度も聞かなかった。効果がなかったのか。効果があっても恥ずかしいから黙っていたのか。そもそも和田秀樹を信じなかったのか。それとも和田式勉強法を勧めるこの私を信じていなかったのか。今となってはわからない。

受験勉強の考え方や方法論について、『ドラゴン桜』は和田秀樹の影響を明らかに受けている。実は今でも私は、和田秀樹に学ぶことは多いと思っている。「受験生は選手だ。そして同時に監督でもある」「受験は英語で決まる。英語を早く仕上げろ」「数学は暗記だ。解法を暗記せよ」「受験勉強は塗り絵みたいなもの。難しくない」といったメッセージに興味がある人は、ぜひ和田秀樹をチェックしてみるといい。

きみの心に火がついたら、それを達成する方法はある。しかし、きみの心に火をつけることができるのは、きみしかいない。『ドラゴン桜』は半分嘘だが、半分本当だと思う。